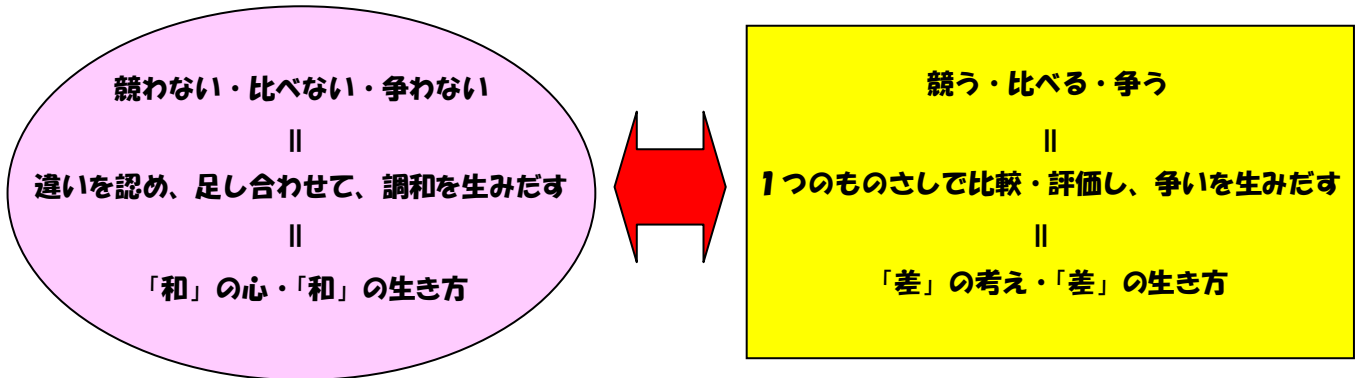


【ぷれし~どのコンセプト】

「き・く・あ」＝「競わない・比べない・争わない」

～ 「和」の心・「和」の生き方を実践し、世界に貢献する ～



「和」には、2つの意味があります。

1つは、「調和」。

全体としてバランスがとれていて、いざこざのないことです。

和やか、温和、平和の和でもあります。

もう1つは、「和合」。

それぞれの違いを認め、足し合わせることです。

それぞれの存在を受け入れ、足し合わせることで、個も全体もより生かされます。

つまり、

人・モノ・コトに対して**それぞれの違いを認めて足し合わせる**のが、**和の心であり和の生き方**です。

それに対して、「差」の生き方というものがあります。

人・モノ・コトを**比較し、差をつけ**、

優劣や正邪や善悪といった評価（価値付け）をする考え方であり生き方です。

1つのものさしで測って、比べ、

その差に対して優劣や上下や順位といったレッテルを貼ります。

もちろん、差自体は何事にもあるものですが、

それが評価と結びつくと、優れたものや順位が上のものは良い、劣っているものや下のものは悪いという見方につながってしまいます。

また、差の生む違いというのは、
相容れないという意味での違いなので**対立**が生じやすく、
往々にして（**無用な**）**競争や戦い**を生みだします。

こうした意味で、
「**差**」の考え・「**差**」の生き方は「**競う・比べる・争う**」に通じ、
「**和**」の心・「**和**」の生き方は
「**競わない・比べない・争わない**」に通じます。

和の心、和の生き方というのは、
日本が世界に誇るべきものだと思います。

いや、誇るというよりも、
世界に貢献できる見方であり生き方だと言えるでしょう。

それぞれの（互いの）違いを認めず、
一方の（自分の）正しさを押し通そうとすることからいざこざが起こり、
それが争いになり、犯罪や戦争にまで発展してしまう。
そんな光景が世界中のあちこちに見られるからです。

お互いに認め合い、調和して、争いのない世界をつくっていく上で、
「和」には貢献できる部分がたくさんあるはずです。

しかし、落とし穴もあります。

それは、調和の意味が強調されるあまり、
「**みんな同じ**」になってしまうこと。

みんなと違うことをしない、行き過ぎたことをしない、同じであるのが良い、
ということにとらわれてしまうことです。

「和を乱す」という言葉があるように、
みんなと違うことや変わったことをすることは「和」に対してマイナスだから、
それは戒めなければいけないという態度です。

これは一見、調和を維持するために大事なことのようですが、
実は、**本来の和とは逆の方向性になりやすい側面**をもっています。

なぜなら、「**同じでない**」ものに対して、
非難や排除や攻撃を加えることが容易に起こり得るからです。

それは悪口や陰口だけでなく、
仲間はずれや村八分につながることもあれば、
争いや戦いを生んでしまうことさえあります。

現在大きな問題として取り沙汰されているいじめなども、
これが根っこにあります。

この根本が変わらない限り、
そうした問題もなくなることはないでしょう。

「和」の本来の意味は、「調和」と「和合」でした。
調和はもちろん大切なのですが、和合も忘れてはいけません。

和合とは、文字どおり、和して合わせること。
つまり、それぞれの違いを認めて、足し合わせることです。

みんなと（を）同じにするのではなく、
「良い・悪い」「正しい・間違い」で分けて判断するのではなく、
むしろ、人・モノ・コトいずれの場合も**それぞれの違いを認め、**
「これもありだね、あれもありだよね」と**それらを足し合わせて生かしていくのが、**
本当の意味での「和」の生き方です。

それによって、**個もより生かされ、**
全体としてのバランスや調和も可能になります。

「競わない・比べない・争わない」も、
「ただ穏便に・何もせず・なれ合いで」ということではなく、
個を生かし、互いを生かし、
全体をより豊かにより調和したものにするという「和」の生き方の実践にこそ、
その真意があります。

「き・く・あ」、そして、「和」。

これからの生き方や価値観の1つとして、
意識してみることは決して無駄ではないでしょう。

そして、それを**自分自身の日常生活の中で意識して実践していくことが、**
結果的に世界への貢献にもつながるのではないのでしょうか。

ぷれし〜どは、
講演会や講座、イベント、書籍やグッズを通じて、
「き・く・あ」な生き方を提案しています。

平成 25 年 2 月



(株) ぷれし〜ど 高島 亮